

【2020 年度松山大学人文学部英語英米文学科 指定校推薦入学試験問題 (60 分)】

下の文は『「日本文明」の真価』(清水馨八郎著)からの抜粋(一部改変)です。この文章を読み、設問 1～4 に答えなさい。

なぜ、日本語は世界一複雑な言語になったのか

言語学者によると世界には二七九四の言語があるという。その中で日本語は、仲間を探すのが困難で、ひとり孤立した言語である。同じ漢字文化圏と言いながら、中国語とは文法、発音がまるで違う。日韓は文化同源といわれ、語順こそ共通点があるが、ヨーロッパの英独仏語間の類似性を、日本語と韓国語の間に見ることはできない。

日本語は世界の言語地図の孤児である。だから他の言語にない様々の特色がある。そのうち最も著しい違いを三つあげよう。

まず欧米語がアルファベットのわずか二六文字を主体に表現されるのに、日本語は片仮名、平仮名、漢字と三種類の文字を持ち、さらにそれを自由に組み合わせて使用するきわめてまれな言語だ。

その二は、欧米語が表音文字の組み合わせ、中国語が表意文字の組み合わせなのに対して、日本語は仮名の表音文字と漢字の表意文字を組み合わせている。

第三に、まったく同じ名詞や事柄に、少なくとも三通りの表現が使われていることである。それは和語(大和言葉)と漢語と洋語の三本立てである。

たとえば和語で「うち」は漢語で「家庭」となり、洋語では「ホーム」となる。和語の「知らせ」は「報道」となり「ニュース」となる。「イヌ」は「犬」と「ドッグ」に、「ハルアキ」は「春秋」となり「スプリング・アンド・オータム」でも通ずる。

また漢字には音読みと訓読みがあり、山川はサンセンでも、ヤマカワでもよく、草木をソウモクともクサキとも読める。こんなわけで日本語は単語の数が世界一多い。一番大きな辞書である平凡社の『大辞典』には、七二万語、中学生用の普通の国語の字引でも、五万の単語が納められている。

日本語の複雑多様化は、その発達過程からもきている。元来、大和言葉は文字を持たなかったが、中国から漢字が入り、和語を巧みに漢字表現するようになった。行灯、陽炎、海老などその例である。

さらに日本独特の平仮名と片仮名を漢字から考案して表音文字を創った。さらに明治以後、欧米の言語を巧みに漢字で表現して「哲学」、「科学」、「経済」など、たくさんの新造語を発明した。その結果、国語はいよいよ複雑多彩な様相を呈してきた。

これに対してインド・ヨーロッパ語族系の言語は、民族の移動や貿易、交流の必要から情報伝達を容易明快にするため、しだいに合理化、簡略化する方向を辿っていった。このことが文字も A B C の二六文字に集約され、数字も 0 から 9 までの単純なアラビア数字に納まっていく要因となった。

彼我^(注)の言語文化は、単純化と複雑化という相反する方向を辿り、日本語はいよいよ難解となり、ますます孤立化して、世界の言語の孤児になっていったのである。

二六文字と数千文字との差

文字は人類最高の発明であり、最高の宝だ。各民族の固有の文字は文化であり、文字の多様性は文化の豊かさを示しているのである。

この点、彼我の文化の分かれ道は、単純二六文字のローマ字文化と、日本語の複数多様な漢字仮名交じり文化によって決定的に方向づけられたとあってよい。彼らは文字をアルファベット二六文字に集約してしまったが、これでは表現に微妙な差異を示すことができない。

彼らは三角形の図形もABCで示し、ビタミンをABCで区別し、学校のクラスもA組、B組、C組としか呼びようがない。商品名も、ABCとアラビア数字の0から9までの一〇文字を組み合わせた(a)とか(b)といった単純な表示しかできない。

これが日本語だったらイロハといった無意味な区別をせず、甲乙丙、優良可、大中小、松竹梅と、内容に意味と情緒のある多彩な区別がいくらかでも可能である。

アルファベットは、文字というより発音記号にすぎない。日本のアイウエオと同じである。欧米人は日本のような意味のある文字を知らない文明なのだ。

日本語は片仮名、平仮名それぞれ五十音、これに濁音とキャ、ギョなどの拗音を加えると一一二文字となり、これだけでアルファベットの四倍強となる。さらに表意文字としての漢字を小学校で約一〇〇〇字、中学校で約二〇〇〇字マスターする。さらに高校卒業の頃には約三六〇〇の漢字を覚え、これで新聞などに出てくる文字はすべて納まる。大学出の普通の日本人なら、知らぬ間に数千の漢字を教養として身につけることができる。二六文字と数千では応用の幅に差がつくのは当然である。

しかも漢字はもともとが象形文字だから、字を見ただけで直観的に意味が理解される。国民はいつも漢字を頭に描きながら話し、思想している。だから同音異義語がたくさんあっても、混乱せずに自由に会話したり書いたりできる。

たとえば、「貴社の新聞記者が汽車で帰社した」という言葉も、漢字で理解されるから、混乱は起きない。ところがこれを表音文字の片仮名やローマ字で綴ったら、読むのも大変だが、すべてキシヤになり何のことか分からなくなる。

日本語に漢字を取り入れず、電報文のようなカナだけで構成していたら、どんなに不便なことだろう。電報文も漢字仮名交じり文に翻訳して、はじめて的確に情報がつかめる。日本人は直観的に理解できる漢字の便利さに慣れているので、カナだけの文章やローマ字は煩^{わずら}わしくて読む気がしない。

日本語がもし、英米語のように仮名だけで成り立っていたら、日本の文化は今日のような繁栄^{きた}を来していただろうか。否^{いな}である。日本文化と社会の発展や活力は、日本語によってもたらされたといって過言ではない。

(注)

彼我(ひが) = 相手と自分

設問 1 本文に記されていない事例で、同一の名詞や事柄を指す、和語・漢語・洋語の事例を二組挙げよ。

設問 2 文意に沿うように、(a) と (b) に適すると思われる事例を挙げると共に、それは何の商品か追記せよ(解答のジャンルは同じでも異なっても差し支えない)。

設問 3 本文に記されていない事例で、三種の同音異義語を含む文または句を挙げよ。

設問 4 日本語は漢字・ひらがな・カタカナの三種類で記され、英語はアルファベットで記されるが、両者の長所と短所について400字以内にまとめよ。